

令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松原小学校

(令和8年2月4日作成)

1 学校教育目標 心身ともに健康で自ら学ぶ子 ～やさしさと 笑顔でつなぐ 松原っ子～ ① 教職員が一体となって、学校教育目標の具現化に努め、新学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。 ② 教職員相互の磨き合いを深め、資質と指導力の向上に努める。 ③ 「時を守り、場を淨め、礼を正す」教育を推進し、凡事徹底・常態のレベルアップに努める。 ④ 安全で落ち着きと潤いのある教育環境の維持・管理に努める。 ⑤ 地域との交流を深め、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	
2 重点目標・努力目標 ○「やさしい心」の育成 子どもたち一人ひとりのよさを認め合う学級経営 ○「強い心」の育成 目標を持たせる教育活動の工夫 ○「健やかな体」の育成 業間運動や体育科授業の充実 ○「自ら学ぶ力」の育成 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践	3 前年度の成果と課題 成果 ○思考力・判断力・表現力の向上を目指し「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を基に「松原小スタンダード」を作成し授業で活用した。また、校内研修で互いに授業を見合うことにより、学校全体で指導方法を見直し改善することができた。その結果、各学力調査において、学力に伸びが見られる児童が前年度よりも増えた。 課題 ●授業中での効果的なICTの活用について検討し、ICTに頼るのではなく、児童の理解を深めたり、知識を広めたりするためのツールの一つとして、必要に応じて児童に活用させることができるよう、校内研修を企画・実施していく。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関する	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○各主任が中心となり、建設的な意見交流をしながらボトムアップで立案や運営・実施を行うことができた。 ●校務分掌における負担感をより均等にしたり、職員会議の時間を削減し、職員の負担軽減につなげていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○探究的な学習のサイクルを通して表現力・活用力を身に付けさせる授業づくりに取り組み、互いに学び合い、認め合い、高め合う児童を育成することができた。 ●教科横断型の授業を展開していくうえで、他教科との連携部分について、今後年間計画に位置付けるなど、計画的に進めていくことが必要。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭・学級担任が適切に連携し、管理職に報告・連絡・相談を速やかに行うことにより、大きな事故やけががなかった。 ○定期安全点検の実施により、施設・設備の事故がなく、児童が安心・安全に学校生活を送ることができた。

もの	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職や事務主事等、複数の目で定期的に諸表簿の確認を行うことにより、正しく管理することができ、事故もなかった。 ○年間20回以上の倫理確立委員会の実施と、各職員による毎月の安全点検により、教職員の危機管理についての意識を高め、適正に施設管理をすることができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校ホームページの毎日の更新、学校運営協議会や地域・保護者ボランティアとの協働や情報交換により、教育活動への理解を得ることができた。 ○地域に開かれた行事により、地域・保護者とのつながりを複数持つことができた。PTAボランティアセンターと連携し、様々な協力を得ることができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度までの栄中学校区の研究発表会に向けた取り組みにより深められた連携をもとにして、生徒指導面等、教職員が個別に連絡を取り合い、様々な教育活動上の対応に生かすことができた。 ○幼保との連絡を密にすることで、交流給食会、学校見学会など連携を深めることができた。

(様式1・小学校用②)

		草加市立 小学校		
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月、授業時数や履修内容を確認することにより、指導計画に基づきほぼ確実に実施することができた。 ○自己評価シート作成時や自己評価面談時に学校教育目標や校長の学校経営方針について教職員に意識づけ、今年度の一貫性を持った取り組みにつなげることができた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き松原スタンダードや学力向上タイムなどの環境整備、まなボードや過去問常設などの環境設備を充実させることで、教材研究が進めやすくなることのできた。 ●内容を年度ごとに更新しながら継続していくことで、教職員全体の教育力向上につなげていきたい。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初の校内研修で授業の流れを確認し、昨年度の評価資料を基に評価まで意識した松原小スタンダードを共通理解することができた。 ○積極的に研究発表を行うことで、道徳科の授業の進め方を全校で共有することができた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月外国語科、外国語活動の予定者進捗状況を確認しながら進めることができた。 ○ALTとのミーティングの時間を確保することで、効果的な指導につなげることができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校行事を通して児童の活躍の場を設け、児童に達成感や充実感を持たせることで、自己肯定感や自己有用感を高めることができた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年の指導計画に基づき、他教科と関連させながら指導を行うことができた。 ○全学年で研究授業を行い、主体的・対話的で不快学びにつなげることができた。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導主任を中心に、様々な児童のトラブルや問題行動に管理職をはじめとする組織で速やかに対応することができた。</p> <p>○いじめ防止対策委員会は定期的なものと緊急時のものと臨機応変に開催し、学校全体で共通理解のもと指導にあたることができた。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○キャリア・パスポートを活用し、家庭や地域と連携することにより、将来の自分への期待を持たせることができた。</p> <p>●地域の活動に参加できる児童を増やすため、様々な教科と関連付けて指導していきたい。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○個別の指導計画をもとに、家庭と連携しながら個々の障害や課題に合わせた、きめ細やかな指導を行うことができた。</p> <p>○発達面、情緒面の課題から通常学級での一斉指導に馴染まない児童等を支援学級に受け入れるなど、柔軟に対応することができた。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<p>○地域ボランティア（はなぐり物語）や教職員の読み聞かせ等により、本に興味をもち、学校図書館を利用する児童が増えた。</p> <p>○年間指導計画を活用し、並行読書のための本をあらかじめそろえることができた。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○今年度も情報教育主任が講師となり教職員研修を行った。これによりICTに苦手意識をもつ教員も授業や行事で積極的にICT機器を活用することができた。</p> <p>○授業の中で必ずICTを使うのではなく、学習内容に応じて何を使用するのが効果的なのか、探究しながら研究を深めることができた。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<p>○人権作文や標語、人権週間での取り組みを確実に実施することにより、児童の人権意識が高まった。</p> <p>●拉致被害者の関係の方を講師に招き、著しく人権を侵害されたことにより生じている問題について、教員にとっても児童にとっても真剣に考える機会とすることができた。</p>

(様式1・小学校用③)

草加市立 小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	豊かな心をはぐくむ学校	・児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む学校	A	<ul style="list-style-type: none"> ○係活動の取り組みや、「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を行う中で、自分の考えを持ち、友達と話し合う活動を通して、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を育むことができた。 ○児童会が主体となり、年間を通してあいさつ運動を実施した。地域の挨拶音ボランティアの方々が、毎朝校門のところに立ち、児童への挨拶の働きかけを行った。その結果、あいさつが定着してきている。また、中学生との合同あいさつ運動の実施により、中学生をお手本としたよいあいさつができるようになった。 ●あいさつが苦手な児童がいる。高学年児童が手本となり、全校に元気なあいさつが広がるよう引き続き指導をしていきたい。 ○毎月児童の俳句を学校だよりで紹介し、昇降口前に掲示することにより、児童が自然や季節を感じ、言葉で表現することができた。
	確かな学力をつける学校	・児童の「自分の考えを持つ・伝える」「コミュニケーションを行う」「他者と協力する」態度を育成する学校。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を毎時間、どの学級でも行うことを通して、児童の「自分の考えを持つ・伝える」「コミュニケーションを行う」「他者と協力する」態度を育成することができた。 ○毎週2回、朝の時間に学習の時間を確保し、基礎的・基本的な学力が見につくような取り組みを行った。特に国語科・算数科の基礎学力の定着につなげることができた。
	体力向上と健康な体を作る学校	・体育科の授業や体育行事の充実、外遊びの時間の確保により、運動好きの児童を育てる学校。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週水曜日はロング昼休みとし、学級で外に出て遊ぶ活動に取り組んだ。外に出て、体を動かすことで、健康な生活の習慣を身に付けさせることができた。 ○「すこやかタイム」の活用や校庭遊びを推奨することにより、意欲的に体力作りに励む児童が増えた。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

○「やさしい心」の育成

子どもたち一人ひとりのよさを認め合う学級経営

授業や係活動の取り組みを通して、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を高めることができた。

○「強い心」の育成

目標を持たせる教育活動の工夫

授業の導入部分で、児童にとって身近な話題や興味のあることから問題を提起し、興味関心や問題意識をもって課題解決に取り組めるようにした。その結果、多くの児童に最後までやり遂げることの大切さを実感させ、達成感を味わわせることができた。

○「健やかな体」の育成

業間運動や体育科授業の充実

体育科の授業や体育行事の充実、外遊びの時間の確保により、運動好きの児童を育てることができた。

○「自ら学ぶ力」の育成

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践

学力調査をもとに、4月当初にレディネステストを行い、学力向上につなげた。また、課題と思われる部分をパワーアップテストに盛り込み、全学年で取り組むことができた。朝の時間に「学力向上タイム」を設定し、国語科・算数科を重点的に全校で問題に取り組ませることができた。「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を基にした「松原小スタンダード」の活用や研究授業を重ねることを通して、松原小の授業のスタイルの土台ができ、実践することができた。これらの取り組みにより、児童の自己肯定感を高め、学力向上に繋げることができた。

○各学年の実態に応じた学校生活アンケートを行い、また生徒指導委員会を定期的に行うことにより、各学年・学級から上げられた生徒指導上の問題点に迅速・丁寧に対応することができた。

○学校運営協議会において学校経営方針をご理解いただき、授業や児童の様子を見ていただくことにより、様々な学校教育活動への支援と協力を得るための協議ができた。地域では地域ごとのお祭り等、参加した児童も多く、学校と地域とが連携して児童を見守り育成していくことができた。

○PTAボランティアとの連携を深めることができ、低学年の給食の補助、各教室のカーテンの補修等、様々な面で協力を得ることができた。

6 次年度の改善策

- ・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業を毎時間、どの学級でも行うことを通して、児童の「自分の考えを持つ・伝える」「コミュニケーションを行う」「他者と協力する」態度を育成することができた。次年度も継続して取り組んでいきたい。
- ・今年度は幼保との交流給食を充実させることで連携を深めることができた。今年度の取り組みを次年度以降も継続して、小1プロブレムの解消に努めていきたい。
- ・これからも全教職員が、教育活動全体を通して、共通理解共通行動のもと、児童の自己肯定感・自己有用感・他者理解を高めるよう意識的に取り組み、積極的な生徒指導を充実させる。不登校やいじめ、問題行動等には全教職員がアンテナを高く張り、早期に発見・解決し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。
- ・次年度の教育課程を見直し、児童への教育的効果を維持しながら教職員の負担軽減につながるように計画していく。学校の環境整備等、PTAボランティアとの連携をさらに深めていきたい。